

神奈川県総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	PJ28 地球温暖化対策の推進
-----------	-----------------

	二次評価意見	県の対応
総合分析の妥当性等		
1	総合分析は概ね妥当である。	
2	住宅用太陽光発電の導入状況を指標として取り上げたのは、県民にとって身近で理解しやすい指標であり、適切と思われる。	
3	二酸化炭素排出量が減少した要因は、景気後退の影響だけではなく、施策の実施効果もあるのではないか。	景気後退による産業部門などのエネルギー消費量減少が主要な要因である旨の記述をしました。
4	二酸化炭素総排出量の増減に関する記述は、1990年度対比の増減率などの形式で表記した方がわかりやすい。	目標達成状況の基準年に関する記述を修正しました。
5	2002年度以降に増減が繰り返されている理由を記述する必要があるのではないか。	2003年及び2007年が大幅に増加した主たる要因は、電力の排出係数の悪化に伴うものですので、注釈を用いて説明を行いました。
新たな政策課題		
6	東京都が独自の排出権取引を導入しているが、神奈川県は導入を考えなくてよいか。	点検の中で対応を検討します。
7	家庭用の太陽光発電に加え、企業や工場に対する再生可能エネルギー導入に向けた支援策も必要と考える。	事業実施の中で対応を検討します。
8	温室効果ガス削減に向け、県民や企業等との連携を進めるとしているが、課題として各主体の役割を踏まえる点も記述すべきではないか。また、各主体の役割を踏まえた対策をさらに進める必要がある。	今後の課題と対応方向欄の3行目「県民や企業等と連携しながら」を「県民や企業等との役割分担を踏まえた中で連携を図りながら」に修正しました。
目標設定の課題		
9	温室効果ガスには二酸化炭素以外にもいくつかあるので、二酸化炭素以外の温室効果ガスの削減についても、目標として設定を検討する必要がある。	点検の中で対応を検討します。
その他		
10	記述全体を通して、温室効果ガスのうち、二酸化炭素を主対象としているように読み取れるため、その旨を記述した方が良いと考える。	ご指摘の趣旨を踏まえ、県としては専ら二酸化炭素の削減を中心に取り組んでいる旨を、注釈を用いて説明を行いました。

神奈川県総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	PJ29 循環型社会づくり
-----------	---------------

	二次評価意見	県の対応
総合分析の妥当性等		
1	<u>総合分析は概ね妥当である。</u>	
2	産業廃棄物の減少は、景気悪化が主原因のように記述されているが、施策の実施効果も要因ではないのか。	総合分析欄の5行目「大幅な景気悪化により」を「大幅な景気悪化などもあり」に修正しました。
3	一般廃棄物、産業廃棄物ともに、1993年度以降のデータが示されているが、過去15年間の増減の傾向についても記述した方が良いと考える。	目標の達成状況の分析に、過去の趨勢に関する記述を加えました。
新たな政策課題		
4	<u>再生利用の進展、不法投棄が問題として記述されているが、循環型社会に向けた取り組みを進める旨の記述に留まっている。具体的にこれらの対策を検討することを課題として掲げ、力を注いでいく必要がある。</u>	今後の課題と対応方向に、地域の特性を踏まえた施策の検討に関する記述を加えました。
5	一般廃棄物、産業廃棄物ともに、排出量の削減のためには、県民、企業、ボランティアやNPOなどとの地域協働、地域連携が必要であり、この点については、今後の課題として検討する必要がある。	事業実施の中で対応を検討します。
目標設定の課題		
6	ゼロエミッションなども、今後の戦略プロジェクトの目標として設定を検討する必要がある。	点検の中で対応を検討します。

神奈川県総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	PJ30 丹沢大山の自然再生の推進
-----------	-------------------

	二次評価意見	県の対応
総合分析の妥当性等		
1	総合分析は概ね妥当である。	
新たな政策課題		
2	丹沢大山の自然環境に対する、観光客やレジャー客などによる人間活動の影響を考慮に入れた取組みを、引き続き進める必要がある。	事業実施の中で対応を検討します。
目標設定の課題		

神奈川県総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	PJ31 都市と里山のみどりの保全と活用
-----------	----------------------

	二次評価意見	県の対応
総合分析の妥当性等		
1	<u>総合分析は概ね妥当である。</u>	
2	総合分析で、自然環境保全地域の指定状況を指標として取り上げた理由は何か。地域指定の状況よりも、現状を示す指標の方が適切ではないか。	自然環境保全地域は、自然環境法に基づき、自然環境を保全することが特に必要な地域として知事が指定するものであり、県によるみどりの保全の現況を示す指標の一つですが、みどりの保全と活用の現状を示すために、より適切な指標で表現しました。
3	「市街地におけるみどりのスペース」とは、具体的に何のデータを示しているのか。「みどり」は抽象的であるので、具体的にデータの意味するものを記述した方が良い。	ここでいう「みどりのスペース」は、地域性緑地、みどりの協定、都市公園、農地等の面積を指しており、その旨、注記しました。
新たな政策課題		
4	<u>都市内の公園や緑地などにおけるアダプト制度の導入への取組みを積極的に進める必要がある。</u>	事業実施の中で対応を検討します。
目標設定の課題		

神奈川県総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	PJ32 水源環境の総合的な保全・再生
-----------	---------------------

	二次評価意見	県の対応
総合分析の妥当性等		
1	<u>総合分析は概ね妥当である。</u>	
2	目標 の達成状況の分析が記載されていない。	5月末に確定した森林面積の数値により、達成状況の分析を記載しました。
3	目標 の水源地域交流イベントなどへの参加者数について、2005年度以降の経年変化についても記述した方が良い。	目標の達成状況の分析欄の1行目「2009年度」の前に「水源地域交流イベントなどへの参加者数は2005年度から毎年増加を続けています。こうした中、」を挿入しました。
新たな政策課題		
4	<u>水源環境の総合的な保全・再生に向けて、エコツーリズムをさらに展開する必要がある。</u>	事業実施の中で対応を検討します。
目標設定の課題		